

## ひがしやしき 東屋敷遺跡

所在地 豊橋市石巻町  
(北緯34度47分22秒 東経137度26分15秒)

調査理由 道路改良工事(主) 東三河環状線

調査期間 平成20年11月～平成21年3月

調査面積 1,050㎡

担当者 鈴木正貴・成瀬友弘



調査地点(1/2.5万「豊橋」)

**調査の経過** 調査は愛知県建設部道路建設課による県道東三河環状線の建設工事に伴う事前調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成21年1月から3月にかけて実施された。調査面積は1,050㎡である。

**立地と環境** 東屋敷遺跡は、石巻山の西麓に広がり、三輪川右岸の河岸段丘南縁部に立地する。石巻山から連なる尾根の先端部に当たり、付近には石巻山登山口がある。周辺の台地端部には多くの遺跡が存在しており、西浦遺跡や高井遺跡群など、とくに弥生時代から古代にかけての遺跡が多い。

**調査の概要** 調査区は段丘南端に位置しており、段丘崖に最も近い調査区南半部で黒色土の厚い堆積が認められた。しかし残念ながら、南半部は大きく攪乱を受け広い範囲で遺構が滅失していた。一方、北半部では黒色土は失われており基盤となる灰白色の礫層が露出する状態であった。もともと基盤層が小段丘状に高くなる場所と思われるが、これも耕作などの攪乱により遺構の残存状況はあまり良いとはいえない。

このような状況で、かろうじて残存していた遺構は、大きく弥生時代後期～古墳時代中期と江戸時代に区分できた。この他に古代に属する須恵器などの遺物が出土しているが、明瞭に遺構に伴う資料は発見できなかった。

**弥生時代後期～古墳時代中期** 段丘崖に近い部分で覆土が比較的良好な状態で残る竪穴建物跡が7棟以上確認された。竪穴建物跡は隅丸方形を呈しているが、地床炉などの内部施設が残っているものは少ない。一方、調査区北半部では竪穴建物跡の貼床や覆土の痕跡が認められたが、全く遺物が出土しないために時期は特定できない。調査区中央付近で炉跡045SLが確認されたが、これも性格や時期を特定し得なかった。

**江戸時代後半** 江戸時代後半の遺構としては、調査区中央部で東西方向に走る溝2条(036SD・106SD)があり、幅約5mの道路状遺構を形成していると考えられる。調査区北半部では柱穴群が検出されており、掘立柱建物跡が数棟復元されているが、これらの時期を特定することが難しい。

**まとめ** 今回の調査で、東屋敷遺跡は複数の時代に断続的に営まれていた集落遺跡であることが確認された。本来は台地の端部で良好に遺構が残っていたと推測されるだけに、攪乱でその大部分が滅失してしまっていることが残念である。(鈴木正貴)



東屋敷遺跡主要遺構図(1:250)